

あとを絶たない不法投棄に、ごみ拾いの奉仕をいただいた皆さま
ありがとうございました

ごみの不法投棄や違法な焼却はやめてください

■ 道ばたや河川敷地に不法投棄が目立ちます

缶やプラ容器のほか、大量の赤ちゃんの紙おむつや家庭用品など、不法投棄が目立ちます。ごみは拾わない限りちらかったまま残ります。

資源ごみは分別し、オムツは処理券を申請すると無料収集されます。

有料化と関係なく分別する意思のない行為が残念です。

■ 法律に違反すると重い処分を受けます

捨てた人に拾わせたほか、通報で5人が警察から事情聴取を受けており、なお捜査中のものがあります。また、違法焼却で消防が出動したものが8件あり、なかには警察も出動し事情聴取を受けたものがあります。

焼却基準が厳しくなり屋外でのごみ焼却はできません。使わない家庭用焼却炉(ドラム缶など、簡易なもの)は粗大ごみとして無料収集します。

ごみの分別に困っている人をみかけましたら、ご近所や利用者間のご協力をお願いします。もし、分別を相談する人がいないので困っている方はお問い合わせください。

その他プラスチックごみの現状について

現在収集している「その他プラスチック」のごみで、汚れやプラ以外のものが混ざって収集できないものが今も多く見られます。収集されない人は不愉快な思いをしますがリサイクルをするための分別にご理解をいただき、下記の注意事項の確認をお願いします。

【その他プラスチックとは】

容器包装リサイクル法の対象となる容器(入れもの)や包装に使用されるものでプラマークのあるものです。(シャンプーや洗剤の容器、卵パック、惣菜のトレイ、カップ麺の容器、ポリ袋が主なものです。)

容器自体が商品(プラスチック製植木鉢等)のものは入れないでください。

【排出方法】

中身や汚れは取り除き洗ってください。汚れているものは収集しません。買い物袋(ポリ袋)、透明又は白色系のビニール袋に入れてください。

知らない訪問販売は家に上がらせないように！

寒い季節になり、例年悪質な訪問販売で布団などを不当に高く売りつけられた相談が寄せられます。とくに訪問販売で購入し、ローンがまだ終わらないうちに、点検を口実に家に上がりこまれ、あらたに売りつけられたケースもありますので、知らない訪問販売員は絶対に家に上がらせないように！本当に欲しいのかよく考えましょう。

しつこくされたり、脅迫されたら110番してください

最近、知らない業者から「債権の譲渡を受けたので至急連絡ほしい。連絡のないときは家や勤務先に伺う」など脅迫めいた架空請求の督促状の相談が増えています。心理的に不安を感じるが、何に対する請求なのか記載されていないことが多く、身に覚えがなければ無視し、決して連絡はしないでください。

生活環境

内線122・123

生ごみ堆肥

「きらりコンポスト」 の配布を終えて

10月4日に町民配布を行いました。町民の関心も高く予想以上の人気に早々に品切れとなりご迷惑をおかけしました。

来年の生産量はさらに増えませんが、希望者に行き渡るよう改善いたします。

飼い犬、飼い猫の 死体の処理方法

きらりサイクル工房へ直接搬入できるようになりました。

飼い犬、飼い猫は家族同様と考えている方も多いと思いますので、ペット霊園で処理できる方はペット霊園へ持ち込んでください。

やむなく、きらりサイクル工房へ持ち込む方は生活環境課で搬入許可証を受け取ってください。(町の収集はいたしません)

搬入の際の料金は、下記の通りです。

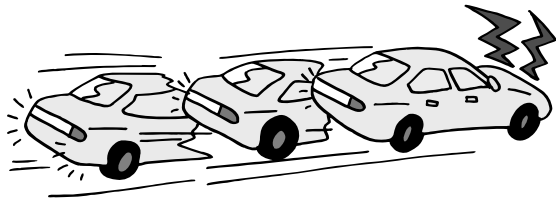
大動物 (鹿など)	5,000円
中動物 (中型犬以上)	3,000円
小動物 (小型犬、猫など)	1,000円

総重量120kg以上の大動物は、破砕・粗大ごみ手数料(5kg/210円)を適用します。

収集運搬許可業者へ委託する方法もあります。

警察

スリップなどによる交通事故の防止



「ヒヤッとした あの一瞬 忘れるな」

毎年、この時期は、圧雪や凍結路面などの冬道での事故が多発します。誰でも一度くらいは冬道でスリップし、ヒヤッとした経験があると思いますが、夏の間はその感覚を忘れてしまい、雪の降り始めに事故を起こす人が多くなります。

初冬期の事故を防止するために次のことに注意しましょう。

「ドライバーの皆さんへ」

・速度を控えて路面状況をよく確認！

雪が降っていないなくても、気温の低下により路面が凍結している場合がありますので、スピードを落として路面状況をよく確認しながら運転しましょう。

特に日陰になっている場所や橋の上、トンネルの中などが凍結している場合があるので気を付けましょう。

・冬道で急のつく動作は厳禁！

凍結路面では、急ブレーキ、急ハンドル、急加速などの急のつく動作はスリップの原因となりますので、慎重な運転操作で安全運転をしましょう。

・車間距離を十分に！

冬道での車間距離は夏の場合よりも3倍は取るように心掛け、追突事故などを防止しましょう。